

モニタリング結果報告書

施設 地球市民かながわプラザ
 指定管理者 (財)かながわ国際交流財団
 施設所管課 県民局くらし文化部国際課

(平成22年度 下半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項等)
10月	11月9日	11月17日	月報・現地確認等で適切に業務が行われていることを確認した。
11月	12月7日	12月17日	月報・現地確認等で適切に業務が行われていることを確認した。
12月	1月9日	1月14日	月報・現地確認等で適切に業務が行われていることを確認した。
1月	2月9日	2月18日	月報・現地確認等で適切に業務が行われていることを確認した。
2月	3月8日	3月16日	月報・現地確認等で適切に業務が行われていることを確認した。
3月	4月9日	4月21日	月報・現地確認等で適切に業務が行われていることを確認した。

2 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る B: 提案どおり C: 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績又は今後の見込みを記載する。

< 提案内容の概要 >

地球市民意識の醸成と多文化共生社会を築くための総合的学習施設として、プラザの持つ施設資源を最大限に活かし、一般来館者、教育関係者、外国籍県民と異なる対象層に最も適した方法で学習機会を提供することなど、施設の効用を高めるため、バランスよく安定的な事業の展開を具体的に提案した。

- ①世界の多様な文化や地球的規模の課題に対する子どもの理解を深めるため、小学校、中学校、高等学校、幼稚園から校外学習を受け入れるとともに、民族衣装の試着や民族楽器の演奏体験など、世界の文化や暮らしを実感してもらうワールドカルチャー・デイを毎月実施するなど、プラザの施設特性や学習資源を活用した学習機会を提供する。
- ②プラザの設置目的を踏まえ、地球規模の課題や多文化共生・異文化理解などをテーマに、企画展を実施し、プラザの学習センター機能を充実させる。
- ③外国籍県民の生活支援の観点から、多言語資料を活用し、外国籍県民の相談体制を整備する。

(継続用紙)

<実施状況>

- ①10月～3月 校外学習受入数 94校 (年間 152校)
ワールドカルチャー・デイ (各月のテーマ: 10月アジア (カンボジア・ネパール)、
11月アジア (メコン地域)、12月中近東、1月南北アメリカ、2月モンゴル、3月
スペシャル)
プラザ利用者数 142,382名 (年間 299,676人)
- ②10月2日～11月28日「母なるメコン写真展」 来場者数 4,615名
メコン河の河口から源流までを遡り、人々と河との様々な係わりを紹介
する写真展の開催
写真家のギャラリートーク、ラオスの子どもとの生中継対話、現地出身
のゲストによる文化紹介等の関連企画を実施
- 2月2日～3月13日「写真展 The Archives of the Planet 100年前の世界へ～アルベール・
カーン平和への願い～」 来場者数 5,390名
神奈川県友好交流先であるフランス・オードセーヌ県との文化交流事
業として、100年前の世界各地の民族や風土をカラー写真で記録、収集し
たアルベール・カーンのコレクションを展示する写真展の開催
写真を通して異なる文化を知ることが世界平和につながるというアル
ベール・カーンの志を紹介
- ③10月～3月 外国人教育相談事業を実施 相談件数 215件 (年間 495件)
相談日 週3日、対応言語 中国語、スペイン語、タガログ語、日本語

3 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金 (前年同月料 金額) その他収入		
年間予算額	318,347	318,347		318,347	0
上半期計 (a)	149,721	149,721	()	114,210	35,510
下半期計 (b)	168,626	168,626	()	200,594	△31,968
10月	26,646	26,646	()	22,357	4,289
11月	24,734	24,734	()	22,351	2,383
12月	39,703	39,703	()	31,538	8,165
1月	24,737	24,737	()	25,050	△313
2月	24,737	24,737	()	26,338	△1,601
3月	28,069	28,069	()	72,957	△44,888
合計 (a+b)	318,347	318,347		314,804	3,542

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

- ・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

残額は年度協定書の規定により県に返還した。

（今期に行った資本的な収入及び支出等の状況）

	内容	金額(千円)
収入の状況	なし	
支出の状況	なし	
積立等の状況	なし	(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	157,294 人	138,911 人	13.2%
下半期計 (b)	142,382 人	153,993 人	△7.5%
10月	27,828 人	21,436 人	29.8%
11月	26,504 人	25,585 人	3.6%
12月	20,209 人	19,652 人	2.8%
1月	22,937 人	22,405 人	2.4%
2月	27,915 人	32,794 人	△14.9%
3月	16,989 人	32,121 人	△47.1%
合計(a+b)	299,676 人	292,904 人	2.3%

利用状況に関する意見等

〔半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。〕

〔 〕

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月					2	2
11月						
12月					2	2
1月					5	5
2月					3	3
3月						

(施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

〔類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者へ評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。〕

分野	概要	対応状況
施設・設備	・特になし	
	・	
職員対応	・	
	・	
事業内容	・	
	・	
その他	・	
	・	

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

発生日	概要・対応状況等
月 日	特になし
月 日	
月 日	

8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日	なし		
月 日			

9 上（下）半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定管理者

アルベール・カーンの写真展については、フランス・オードセーヌ県立アルベール・カーン博物館との事前の調整を早期に行い、100年前の多様性豊かな世界の貴重なカラー写真を展示することができた。また、プレスリリースの結果、テレビ放映や新聞記事で紹介されたこともあり、来場者数は年間3回行う企画展の中で最も多くなった。アンケートの回答においても、写真展の内容に感動の声が寄せられた。

施設所管課

上記の写真展では、多くの方にご来場いただき、地球市民かながわプラザの設置目的である国際理解や国際平和を考える機会を提供できたことは評価できる。
ただし、アンケート結果の中には、広告やアピールの足りなさを指摘する意見もあることから、新たな利用者を掘り起こす広報の強化等、来館の機会を創造するための工夫が求められる。